

## 学校経営推進費 最終報告書

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本英語検定協会英語能力テスト2級、準2級の合格者の割合</li> <li>・日本漢字能力検定協会漢字能力テスト2級、準2級の合格者の割合</li> <li>・実務技能検定協会秘書検定2級、3級の合格者、及びその他検定合格者の割合</li> </ul>
計画名	検定試験合格と学校力の飛躍計画

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>大阪成蹊女子高等学校の教育計画より「中期的目標」（抜粋）</p> <p>③本校の学びの目標である成蹊スタンダードを明確にし、その3か年の教育目標の達成に向けた各教科の取組みを計画的に進める。また、生徒の学習意欲を高めるために、生徒の学習意欲の向上と達成感の醸成のために、各種検定試験の活用を勧める。また、日々の教科指導を点検し充実させるなど、「わかる授業」の実践と学力の向上を図る。（各種検定を活用した学習の促進）</p> <p>④本年度から全コースで実施するキャリア教育を更に充実させ、それをベースとして、各コースの特色ある取組みの更なる充実をめざして他校との差別化を図る。（キャリア教育の推進と特色あるコースの鮮明化）</p>
事業目標	<p>本校は中堅層の生徒が学ぶ私立女子校であり、幅広い学力と多様な学習目標の生徒が集まっている。とりわけ、特進・幼児教育・スポーツ・美術・キュリア進学の特長ある5コース制のもとで、自立した女性として社会で活躍する人材育成をねらいに教育活動を展開してきたが、生徒・保護者の要望に応えるために、更なる教育力の向上が必要となってきた。今回、「女子に特化したキャリア教育」を教育目標の中心に位置づけ、将来の夢と目標の実現に向けて基本的な知識としての学力の向上と自立心の育成、自己肯定感の醸成をねらいとする経営計画を策定した。その目標達成に向けた方法として、各種検定の資格取得を全校的に推奨し、コース毎の多様な生徒ニーズに対応して英検・漢検・秘書検定・料理検定・歴史検定など各種検定の中から生徒に複数の検定受験を義務付け、校内的には対策補習の他に、関連科目の内容に資格取得のための取組みを体制的に加え、卒業までに自己達成目標として一定レベルの級の合格を必須とする指導計画を作成した。この計画では全生徒を対象に、関連する科目の授業や放課後補習でICTを活用した検定対策も十分に行うほか、平成27年度から検定対策を主目的とする学校設定科目をカリキュラムに組み込むなど全校的な体制に整備する。併せて、生徒の資格取得の達成と学力向上をめざしており、検定受験の取組みによる学習意欲と達成感の向上を起爆剤にして、日常的な一般的な学力向上の契機になることも期待したい。また、その実現に向けた学習ツールとして本校のICT活用環境を整え、ICT教育の向上も図る。また教員管理の面でも、検定受験で合否が客観的に出るため、個々の教員の指導力評価指標としても活用できるので教員の指導力改善にも繋がる。本計画では、検定取得に向けた校内の取組みの強化を通して、生徒の基礎学力と達成感から派生する学習意欲の向上、学校のICT環境の整備、評価を通じた教員の授業指導力の向上が期待できるなど、学校全体の教育力の向上を目標として本計画を推進したい。</p>
整備した 設備・物品	<p>① タブレット 1クラス生徒数分として40台、及び関連する充電器と管理庫</p> <p>② 授業説明用の電子黒板1台とプリンター等の接続する周辺機器</p> <p>③ 全教室の黒板の上に設置する固定式のプロジェクター用ロールスクリーン</p> <p>④ 図書館に整備する各種検定（英検、漢検、秘書検定、料理検定、歴史検定等）受験対策図書を各複数</p>
取組みの 主担・実施者	<p>担当組織として学力・検定対策プロジェクトチーム（教頭、主幹教諭、副主幹教諭、教務部長、教務部1名ほか）を設置し、主担に本校の副主幹教諭を配置する。</p>
本年度の 取組内容	<p>① 本予算で全教室の黒板に設置したロールスクリーンを活用した授業が広がり、英語・数学・国語等の教科で使用場面が拡大した。特に、活用のための校内研修及び研究授業により、英語の授業では視聴覚機器の活用は進んできた。</p> <p>② 無線LANの整備とともに、本予算で購入した40台のタブレットを使用した学習は着実に拡大。また、英語リーディングをデータベース化した活用では生徒のリスニング、スピーキングの向上に大きく貢献できた。</p> <p>③ 本予算で購入した検定対策本、対策ソフトを使った個別学習機会の更なる拡大を図った。また、漢検・英検のPC対策ソフトの使用も生徒の自主学習の機会として活用した。</p> <p>④ 本予算で購入した多目的ホールの大型プロジェクターは大変役に立ち、講演会の充実を図り、様々な研修会が実施できた。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>生徒数が飛躍的に伸びる中で、以下のとおり前年度に修正を加えて、到達目標に向けて取り組んだ。</p> <p>① 秘書検定の達成目標 … 1年生全員対象 3級合格者を30%、2級合格者10%</p> <p>② 英語検定の達成目標 … 3年生全員対象 2級合格者を3%、準2級合格者を5%、3級合格者を50% 1年生、2年生全員対象 GTECのレベル2を50%</p> <p>③ 漢字検定の達成目標 … 1年生全員対象 2級合格者を5%、準2級合格者を10%、3級合格者を30%</p> <p>④ 料理検定の達成目標 … 希望制 3級合格者60%、2級合格者30%</p>
自己評価	<p>※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）</p> <p>本年度、1年生に688名が入学し19クラス体制となり、学力的に幅広い生徒が入学してきた。そのような状況の変化の中で、各教科とも学力向上に努力しており、その成果は以下のとおりである。</p> <p>① 秘書検定は1年生全員658名が受験し、昨年度より200名以上増加した。その結果、2級4名合格、3級104名の合格者で、合格者人数は昨年度より大きく増やすことができた。合格率は20%に達した目標が、まだまだ不十分である。（△）</p> <p>② 英語検定は、本年度からスコア型のGTECを1年生、2年生の全員が受験した。GTECレベル2の段階に50%が達した。また、3年生は希望者に英語検定を受験させた。その結果、2級合格率は約5%であった。（○）</p> <p>③ 漢字検定では、1,193名の生徒が受験した。その結果、2級合格者は2名で合格率は4.3%、準2級は合格者41名で合格率15.5%、3級合格者は212名で合格率25.5%でほぼ目標どおりである。（○）</p> <p>④ 料理検定では希望制ではあるが、昨年度以上に受験があり、2級の合格率30%、3級の合格者は60%で、ほぼ目標に達した。（○）</p>
事業のまとめ	<p>・本予算で設置したホールのプロジェクターや、タブレット40台などICT機器の活用は年々積極的に進められた。特にタブレットの活用は活発に行われた。本年度の電子黒板（2台）の活用はまだ不十分であり、今後の課題となっている。</p> <p>・また、情報機器の整備と各種検定対策ソフトの配置は、本校にとって大きな教育的効果に繋がった。とりわけ、私立として遅れていた情報教育及びICT機器の活用は、ハード環境の整備とともに、校内研修会等の実施もあり、前進することができた。</p> <p>・本校の大きな特色となっているキャリア教育の科目「キャリアデザインα」の中で実施している秘書検定は生徒・保護者からの評価は高く、今後も充実させる方向で取り組みたい。当初の合格率向上の目標達成は困難であったが、今後につながるものである。</p> <p>・本事業で各種検定の合格者数及び合格率の向上をめざしたが、その中で英語検定の合格・不合格型検定は本校生には適応しておらず、スコア型検定（GTEC、TOEIC）への移行も本事業の成果として挙げられる。次年度スコアとしてGTECの結果が有効に活用できる。本事業の実施は、本校には大きな成果であった。</p>